

**CASBEE神戸ver.3**  
**神戸市西区総合庁舎建設工事**

■使用評価マニュアル: CASBEE神戸ver.3

欄に数値またはコメントを記入 ■評価ソフト:

CASBEE神戸ver.3/CASBEE-BD

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
<b>Q 建築物の環境品質</b>									<b>3.4</b>
<b>Q1 室内環境</b>					<b>0.40</b>				<b>3.2</b>
<b>1 音環境</b>				<b>2.8</b>	0.15				<b>2.8</b>
1.1 室内騒音レベル				<b>3.0</b>	0.40	<b>3.0</b>			
1.2 遮音				<b>2.6</b>	0.40				
1 開口部遮音性能				3.0	0.60	3.0			
2 界壁遮音性能				2.0	0.40	3.0			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				3.0	-	3.0			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				3.0	-	3.0			
1.3 吸音				<b>3.0</b>	0.20	<b>3.0</b>			
<b>2 温熱環境</b>				<b>3.0</b>	0.35				<b>3.0</b>
2.1 室温制御				<b>3.0</b>	0.50				
1 室温				3.0	0.38	3.0			
2 外皮性能				3.0	0.25	3.0			
3 ゾーン別制御性				3.0	0.38				
2.2 湿度制御				<b>3.0</b>	0.20	<b>3.0</b>			
2.3 空調方式				3.0	0.30	3.0			
<b>3 光・視環境</b>				<b>3.6</b>	0.25				<b>3.6</b>
3.1 昼光利用				<b>2.4</b>	0.30				
1 昼光率				2.0	0.60	3.0			
2 方位別開口					-	3.0			
3 昼光利用設備				3.0	0.40	3.0			
3.2 グレア対策				<b>4.0</b>	0.30				
1 昼光制御		ブラインドと庇により昼光を制御		4.0	1.00	3.0			
3.3 照度				<b>3.0</b>	0.15	<b>3.0</b>			
3.4 照明制御		一部分にまとめてスイッチを設ける計画とする。		<b>5.0</b>	0.25	<b>3.0</b>			
<b>4 空気質環境</b>				<b>3.3</b>	0.25				<b>3.3</b>
4.1 発生源対策				<b>3.0</b>	0.50				
1 化学汚染物質				3.0	1.00	3.0			
4.2 換気				<b>3.3</b>	0.30				
1 換気量		居室の換気量を30m3/h・人としている		4.0	0.33	3.0			
2 自然換気性能				3.0	0.33	3.0			
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.33	3.0			
4.3 運用管理				<b>4.0</b>	0.20				
1 CO <sub>2</sub> の監視				3.0	0.50				
2 喫煙の制御		敷地内は全面禁煙としている。		5.0	0.50				
<b>Q2 サービス性能</b>					<b>0.30</b>				<b>3.9</b>
<b>1 機能性</b>				<b>3.9</b>	0.40				<b>3.9</b>
1.1 機能性・使いやすさ				<b>3.6</b>	0.40				
1 広さ・収納性				3.0	0.33	3.0			
2 高度情報通信設備対応		OAフロアを設けるとともに一定以上の容量、配線スペースを確保		4.0	0.33	3.0			
3 バリアフリー計画		建築物移動等円滑化基準を満たしている。		4.0	0.33				
1.2 心理性・快適性				<b>4.6</b>	0.30				
1 広さ感・景観		執務室の天井高さを2.8m以上とする		4.0	0.33	3.0			
2 リフレッシュスペース		休憩室を設けるとともに一部のリフレッシュスペースに自動販売機を		5.0	0.33				
3 内装計画		パースなどにより内装計画を事前に検討済み		5.0	0.33				
1.3 維持管理				<b>3.5</b>	0.30				
1 維持管理に配慮した設計		風除室を大きく確保。トイレの仕上げは防水性の高い仕上げとする		3.0	0.50				
2 維持管理用機能の確保		トイレにSKを設ける。		4.0	0.50				
<b>2 耐用性・信頼性</b>				<b>4.2</b>	0.30				<b>4.2</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振				<b>5.0</b>	0.50				
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		建築基準法以上の計画としている		5.0	0.80				
2 免震・制震・制振性能		免震装置を導入している。		5.0	0.20				
2.2 部品・部材の耐用年数				<b>3.4</b>	0.30				
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.20				
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				2.0	0.20				
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		内装材を補修必要期間が20年以上のものを使用		5.0	0.10				
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.10				
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		耐久性の高い配管材料を採用している		4.0	0.20				
6 主要設備機器の更新必要間隔		主要機器の更新必要間隔を16年以上としている		4.0	0.20				
2.4 信頼性				<b>3.6</b>	0.20				
1 空調・換気設備		災害時に運転できる空調システムを設定し非常用電源で運転できる		4.0	0.20				
2 給排水・衛生設備		災害時に非常用排水槽を計画、雨水を雑用水利用できる計画とし		5.0	0.20				
3 電気設備				3.0	0.20				
4 機械・配管支持方法				3.0	0.20				
5 通信・情報設備				3.0	0.20				

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>3.5</b>	0.30	-	-	<b>3.5</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>			<b>4.6</b>	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	階高4.2m以上を確保	5.0	0.60	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ	面積に対して壁が少なく自由が高い。	4.0	0.40	3.0	-	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>			<b>3.0</b>	0.30	3.0	-	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>3.2</b>	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性	構造部材を痛めることなく修繕と更新ができる計画としている	4.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.2</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>			<b>1.0</b>	0.30	-	-	<b>1.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>		周囲の建物の大きさに合わせるとともに景観に配慮する計画としている	<b>5.0</b>	0.40	-	-	<b>5.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>3.0</b>	0.30	-	-	<b>3.0</b>
<b>3.1 地域性への配慮、快適性の向上</b>		ビロティ、交流スペースを設け地域住民が気軽に利用できる計画とし	<b>4.0</b>	0.50	-	-	
<b>3.2 敷地内温熱環境の向上</b>			<b>2.0</b>	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	<b>3.6</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	<b>0.40</b>	-	-	<b>3.9</b>
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>		[BPI][BPI <sub>m</sub> ] = 0.76	<b>5.0</b>	0.20	-	-	<b>5.0</b>
<b>2 自然エネルギー利用</b>		自然通風・自然換気が出る計画としている	<b>4.0</b>	0.10	-	-	<b>4.0</b>
<b>3 設備システムの高効率化</b>		[BEI][BEI <sub>m</sub> ] = 0.71	<b>3.9</b>	0.50	-	-	<b>3.9</b>
<b>4 効率的運用</b>			<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
集合住宅以外の評価			<b>3.0</b>	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			3.0	-	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	-	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	-	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.6</b>
<b>1 水資源保護</b>			<b>4.2</b>	0.20	-	-	<b>4.2</b>
<b>1.1 節水</b>		節水型便器を採用している	<b>4.0</b>	0.40	-	-	
<b>1.2 雨水利用・雑排水等の利用</b>			<b>4.4</b>	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無	雨水を雑用水に利用している	5.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			<b>3.6</b>	0.60	-	-	<b>3.6</b>
<b>2.1 材料使用量の削減</b>			3.0	0.10	-	-	
<b>2.2 既存建築躯体等の継続使用</b>			3.0	0.20	-	-	
<b>2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用</b>		-	3.0	0.20	-	-	
<b>2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用</b>		岩綿吸音板、インターロッキングブロック	4.0	0.20	-	-	
<b>2.5 持続可能な森林から産出された木材</b>			3.0	0.10	-	-	
<b>2.6 部材の再利用可能性向上への取組み</b>		躯体と仕上げ材が容易に分別でき、再利用できるユニットを設ける。	5.0	0.20	-	-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>3.2</b>	0.20	-	-	<b>3.2</b>
<b>3.1 有害物質を含まない材料の使用</b>			<b>3.0</b>	0.30	-	-	
<b>3.2 フロン・ハロンの回避</b>			<b>3.3</b>	0.70	-	-	
1	消火剤	オゾン破壊計数0のガス消火剤を採用している	4.0	0.33	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.33	-	-	
3	冷媒		3.0	0.33	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.1</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>		省エネ計算よりBPI,BPI <sub>m</sub> が0.76である	<b>3.7</b>	0.33	-	-	<b>3.7</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>			<b>2.8</b>	0.33	-	-	<b>2.8</b>
<b>2.1 大気汚染防止</b>		Nox、Sox、ばいじん発生量は排出基準より大幅に抑えられた機器を	<b>4.0</b>	0.25	-	-	
<b>2.2 温熱環境悪化の改善</b>			<b>2.0</b>	0.50	-	-	
<b>2.3 地域インフラへの負荷抑制</b>			<b>3.2</b>	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	駐輪場及び駐車場を設けるとともに車寄せを設け渋滞緩和に寄与す	4.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>			<b>2.8</b>	0.33	-	-	<b>2.8</b>
<b>3.1 騒音・振動・悪臭の防止</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
<b>3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-	
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
<b>3.3 光害の抑制</b>			<b>2.3</b>	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		2.0	0.70	-	-	
2	星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	